

7月の終わりに友達2人トカナダのトロントへTORONTO BLUE JAYS主催のベースボールキャンプへ行って来た。野球をやったのはもちろん本場メジャーリーグの試合を観たり、ナイアガラを滝を見たりと色々な経験ができた。でもやっぱり一番印象に残っているのがベースボールキャンプのことだ。僕らと同年か、それより下のはずなのに体が2倍くらいある。日本とは違う広いグラウンドには緑に光った芝生がキレイに生えている。でも日本と違う所がなんと『野球』と『ベースボール』の違いである。僕らのやっている『野球』は勝つための練習。練習練習…。好きでやっていたはずの野球もいつの間にか、苦しくていやになってしまう。そんな感じである。しかしカナダの子達がやっていたベースボールとはとにかく楽しむことを目的にやっているのだ。そんな日本の野球で育った僕らにとってはなんだか真面目にやっただけでなくチャランポランに見えたのだが、いざ練習がはじまると、目が真剣になり、さっきの人とは人が変わったように集中して練習をする。いつも張りつめた空気の中で練習している僕らにとって見習わなくてはいけないことだと思った。体も大きく、言葉の壁もあったためなんとなくつつきに感じだした地元の子供達とも野球をやっているうちにどんどんうちとけてゆき、特に仲の良くなった二人には「この後、僕らの野球チームの試合を見にこないか？」なんて、さそってくれたりした。(残念ながら、その日はナイアガラに行く予定があったから行くことはできなかった) 言葉があまり通じなくても身振り手振りで教えてくれたりと、とにかく人なつこく、みんないいやつらばかりで別れるのがおしかった。ナイアガラは言葉で言い表すことができないくらいスケールのかささと迫りに圧倒されてしまった。一週間という短い間だったが、学校じゃ教えてくれないとてもよい勉強、体験をした。ちなみに、ベースボールキャンプのおかげか、僕達3人の所属する高校野球チームがチーム始まって以来の快挙を成しとげた。カナダでいい勉強をさせてもらった結果だと思ふ。



From パラグアイ



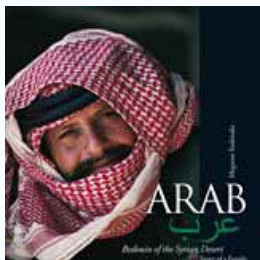
難波様

新春の候、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。平素はなみなみならぬお引き立てをありがとうございます。

早いもので協力隊活動も残すところ2カ月となりました。スペイン語もだいぶ話せるようになり、現在は農業分野の現地パートナーと共に穀物類の収穫指導に追われる日々です。残りの任期中もこれまで以上に奮闘し、微力ながら任地の方々の生活向上のために尽力したいと思います。さて帰国日が3/21(土)に決まりました。その後、市ヶ谷にて事後オリエンテーション・健康診断、表敬訪問(宮城県及び市町村)が実施される予定です。まずは取り急ぎご報告申し上げます。立春を目前にしていますとはいえ、まだまだ寒さ厳し折かと存じます。お風邪など召されませぬよう、お気をつけ下さい。帰国後お会いできることを楽しみにしております。

青年海外協力隊 村落開発普及員 パラグアイラパス市派遣 阿部江里

「ARAB Bedouin of the Syrian Desert:Story of a Family」



吉竹めぐみシリア写真集を出版

活動の特徴は遊牧民の一家を17年間定点観測してきたこと。そこからいろんなことが見えてきた。「持っている物は少ないが、相互扶助を実践し、年長者を敬い、慎み深い。自制心が強く、家族を愛し、思いやりにあふれている。私たちよりもはるかに心豊かに暮らしており、そんな平和に満ちた暮らしをしている人たちのことを知ってほしい」



Michi recommends 響く本『転換期を生きる君へ』

清水 博 (NPO法人 場の研究所・所長)



清水 博 (しみずひろし)

1932年愛知県瀬戸市生まれ。1956年東京大学医学部薬学専攻卒業。同大学院化学系研究科終了。九州大学理学部教授、東京大学薬学部教授などを歴任。1993年東京大学を退官し、金沢工業大学工学部教授を経て『場の研究所』を設立。

★若いといふフロンティア★

若いということは、未来への可能性と、その可能性を実現する時間をもっているということである。そのために若者は夢を追い求め、日々、心に夢を抱いて眠る。日々、夢を育むのだ。夢にも、すぐ覚めてしまう夢と、人間の目的となって人生を生きてしまう夢と、人間の目的とする夢とがある。もちろん、素晴らしい夢をもつて越したことはない。それができるかどうかは、結局、君が一生かけて実現しようと思ふ理想をもっているかどうかによっている。もともと夢は現実の社会の中にあるものではない。現実の社会を越えるところに理想をもつことから、夢は生まれるのだ。Boys be ambitious! というクラーク博士の言葉があるが、若者は理想主義者でなければならぬ。理想に結びついた夢が人間を高めてくれるのである。理想の実現を人生の目的におくことが志を立てるといふことである。高い志は人

生を充実させて、君を生きて生かしてくれる。私たちの一生の時間は長いようでまことに短い。その生の時間を少し引き延ばすことができたとしても、たかが知れている。したがって私たちが実行できることは「自分という存在が生きている時間」を充実させることだけである。仮に同じ時間を過ごしても、意味なく過ごす時間は密度が低く、充実した時間は密度が高い。一度しかない一生を、密度の低い時間で埋めるか、それとも密度の高い時間で埋めるか、これを決めるのが人間の志の高さである。だから人間にとっても価値のあるものは、多くの人々が求める金や地位や名誉ではなく、高い志であると、私は心から思っている。高い志は高い理想から生まれる。君の理想が高いほど、理想は君に高い志を与えてくれるのである。高い理想とは、その実現に君が使命感をもっていることである。使命感は苦しいときにも人間を支えてくれる。人間は使命感さえあれば、苦しい試練にも、勇気をもってよく耐えて、高い壁にじつくりと取り組んで遂にそれをうち破っていくことができるのである。勇気もってないのは、理想が低く、使命感がないからである。私は君に問いたい。なぜ、君は高い理想をたずねようとするのか。時代の大きな転換期がもたらす危機こそ、高い理想を実現する機会を若者たちに与えてくれるのである。

日本の歴史を振り返ると、社会の危機の中で夢に燃えて、新しい時代を作ってきたのは若者たちである。たとえば織田信長。彼は旧い秩序が崩壊し始めた混乱期に生まれて、日本の中世を近世に転換させた人物である。信長の当時の登場人物、周囲の大人たちの旧い価値観と戦いながら、自分の夢を作り、懸命に夢を追い、そして遂に夢に死んだ人物である。また彼に協力して戦った徳川家康、豊臣秀吉といった人物も、そうした若者らしい気風をもった人々であり、信長の夢に強く共感する心をもっていたのではなかったであろうかと、私は思っている。旧い価値観に縛られた大人たちが見ることができない夢を、これらの若者たちは見ているのではないだろうか。時代の大きな転換期に生き残るためには、時代の流れを読む感覚が必要であることは、それは今も昔も変わらない。若者は、生き生きとした生命感覚が、時代の流れを正しく読みとれるのである。三方が原で旧時代の代表者である武田信玄に敗戦を覚悟に挑んだ徳川家康の心情は、彼の使命感に共感しなければ理解することはできない。もしもこの共感があれば、家康の心は、4百年の時間を超えて、私のところに感動をもつて蘇るのである。

明治維新も当時の若者たちの手によって成し遂げられた。彼らは大きな夢を作り、志を立て、そしてその志に自己を捧げた人々である。たとえば司馬遼太郎の「翔ぶがごとく」を読むと、吉田松陰や高杉晋作など、当時の若者がどのような思いで夢を実現しようとしたかがわかるであろう。夢は自分個人の夢として見るだけのものではなく、多くの人の夢として見るものである。吉田松陰が教育したのは特別な階級の人々ではなく、高杉晋作を除けば、もともと大きく矛盾を受けてきた低い階級の武士や百姓たちの中からも松陰の夢に共感して、懸命に戦った人々が生まれたのである。

常磐文克の「知の経営を深める」(PHP研究所)に山口市のある古老が語った松陰についての印象が紹介されている。「入門した最初の日、印象が紹介された。一入門したときの鋭い人が出てきた。それが松陰であった。松陰はわずか10歳の子供に向かって、字句のことなど頓着せず、知らない文字があっても、そんなことは構わぬ、というふうで、国家の大事を説き聞かせた。あつげにとられて、かれこれ半時あまりも聴いているうちに、彼の心は松陰に吸い取られてしまった。書物のことより、松陰のキラキラした目と火のような弁舌とが、頭の中を往來して、まるで夢心地であった。もちろん講義の内容を理解することはできなかったが、松陰の憂国の情、あるいは建国の志のようなものはひしひしと伝わってきたという。」「信長の目も、きっとキラキラと輝いていたのではないだろうか。」

MAPLE NEWS Vol.73

2015年

ついに日本人DNA蘇りプロジェクト誕生



日本遠征に意欲満々のメンバーと在バンクーバー日本国総領事岡田誠司氏(2列目右から5番目)



情熱あふれる「新朝日」発起人とサポーターの皆さん

日系少年野球チームバンクーバー新朝日

2014年12月19日は、映画「バンクーバーの朝日」の再上映の開始初日だった。バンクーバーのバン・シティ・シアターの劇場の舞台に並んだ、あどけない顔つきの少年から、落ち着いた雰囲気のある青年までの17人。結成間もない日系ユース野球チーム「新朝日」のメンバーは少しはにかんだ表情で観客の前に姿を見せた。映画の再上映決定、チーム紹介の機会、このフレッシュなチームには、さらにいくつもの幸運な巡り合わせがある。

2015年1月8日号掲載
Vancouver Shinpo Japanese Weekly Newspaperより

いざ日本へ! VANCOUVER SHIN ASAHI



ENGLISH JAPANESE STUDIES
CANADIAN ACADEMY SETAGAYA
4-20-13-213 NOZAWA SETAGAYA-KU, TOKYO, 154-0003, JAPAN TEL:03-5712-3670
BRANCH:ENGLAND,CANADA,NEWZEALAND,USA FAX:03-5712-3671